

川崎商工会議所 地域経済動向調査レポート

○商工会議所 LOBO 調査（早期景気観測調査）と中小企業基盤整備機構 中小企業景況調査より、川崎市内の事業者データだけを抽出し、川崎市内地域経済動向として掲載しています。

○また、川崎信用金庫の中小企業動向調査より、景況感の概況について抜粋し掲載しています。

◆商工会議所 LOBO 調査とは

商工会議所のネットワークのもと、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景気感」を毎月調査することにより、企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用することを目的としています。

※本調査レポートでは、川崎市内の事業者データのみ抽出しています。

◆中小企業景況調査とは

中小企業を対象に、業況判断・売上高・経常利益等の DI 値※を、四半期毎に産業別・地域別等に算出する景気動向調査です。経営者へのヒアリングをベースに算出しています。約 80%を小規模企業が占める日本の中小企業構造の実態を踏まえた唯一の調査です。

※本調査レポートでは、川崎市内の事業者データのみ抽出しています。

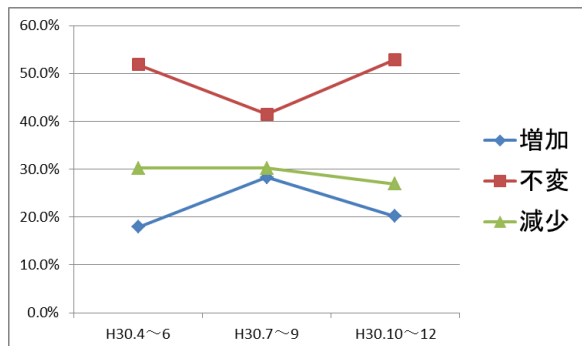
※DI・・・ディフュージョン・インデックス。前年同期比または前期比で、「好転」と回答した企業比率から「悪化」と回答した企業比率を引いた数値。

平成 31 年 1 月

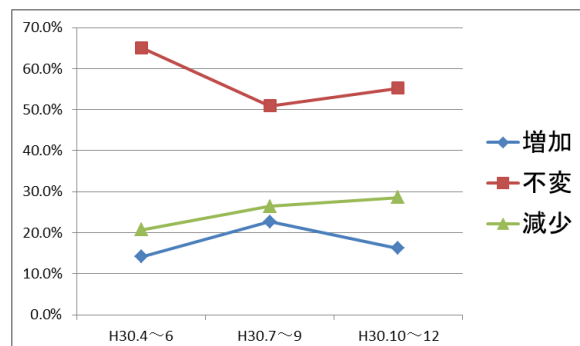
▽川崎市地域経済動向

・期間：平成30年4月～6月期（Ⅰ期）・7月～9月期（Ⅱ期）・10～12月期（Ⅲ期）【全業種】

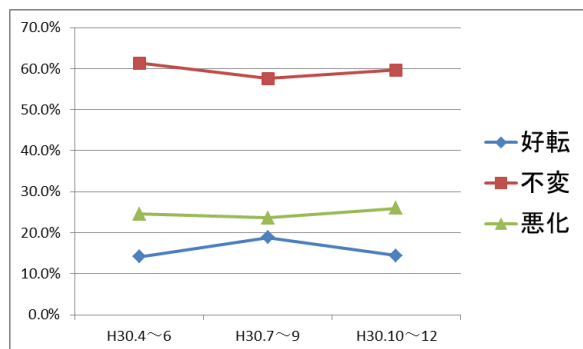
●売上高（前年同期比）



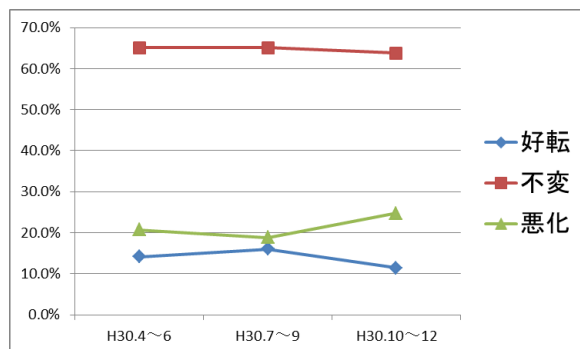
●売上高（向こう3ヶ月の先行き見通し）



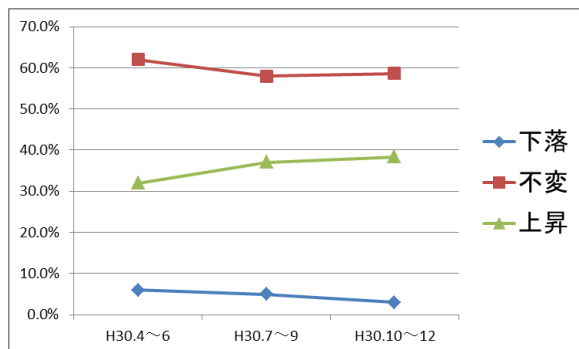
●採算（前年同期比）



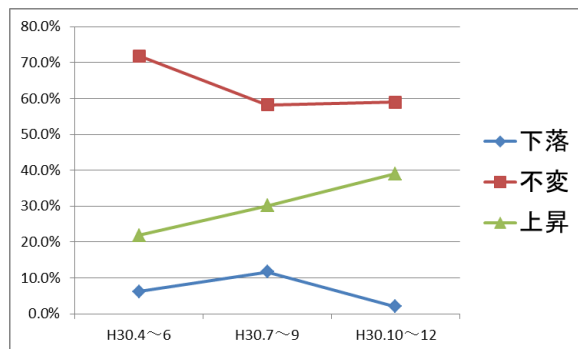
●採算（向こう3ヶ月の先行き見通し）



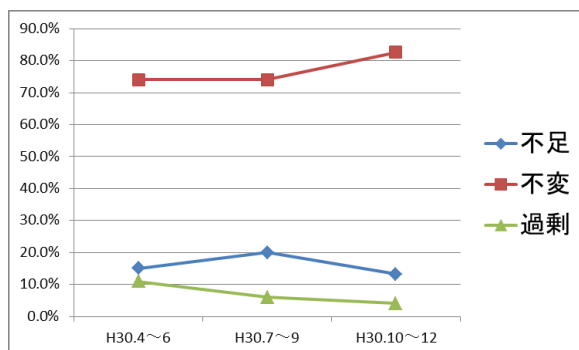
●仕入単価（前年同期比）



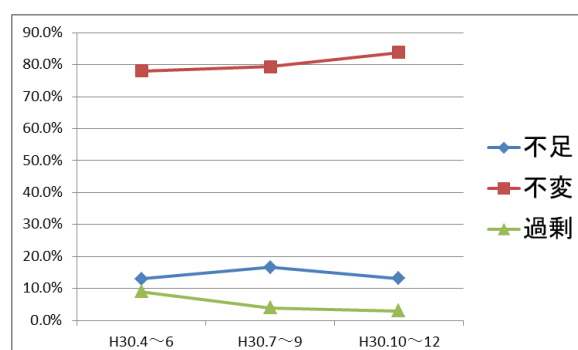
●仕入単価（向こう3ヶ月の先行き見通し）



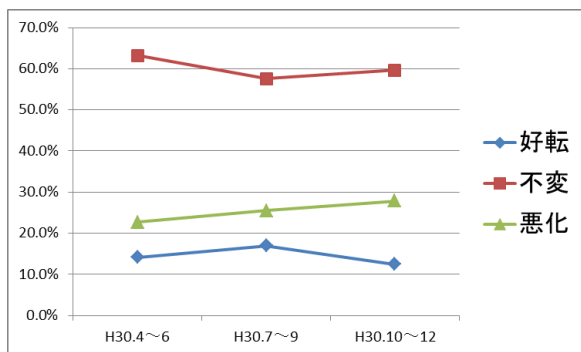
●従業員（前年同期比）



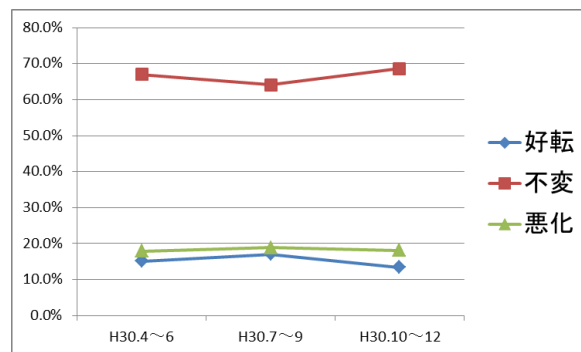
●従業員（向こう3ヶ月の先行き見通し）



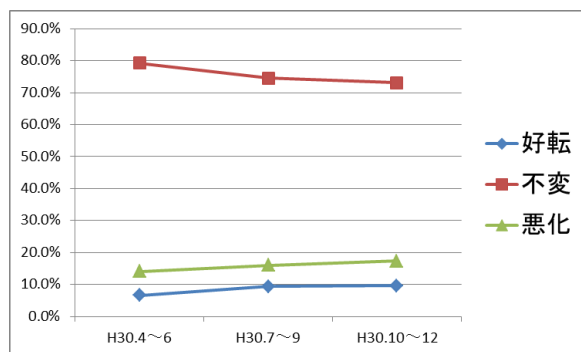
●業況（前年同期比）



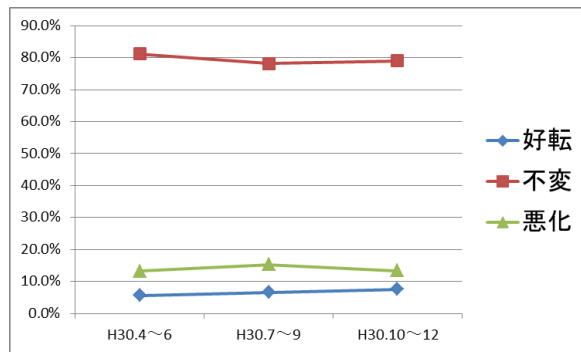
●業況（向こう3ヶ月の先行き見通し）



●資金繰り（前年同期比）



●資金繰り（向こう3ヶ月の先行き見通し）



▽まとめ

今期売上は横ばいで微減の見通し、採算面も横ばい。仕入単価は上昇傾向にあり、人手の過不足はほぼなし。全体的に業況は横ばいに推移し、資金繰りはやや好転が予想される。

▽全国の状況との比較

【中小企業基盤整備機構第154回中小企業景況調査<2018年10-12月期>結果より】

「中小企業の業況は、一部業種に一服感が見られるものの、基調としては、緩やかに改善している。」

- ・ 業況判断DIは3期ぶりに上昇（川崎市内は低下）
- ・ 資金繰りDIは、2期ぶりに上昇（川崎市内は1期ぶりに低下）
- ・ 原材料商品仕入DI「上昇」－「低下」は、2期ぶりに上昇（川崎市内も同様）
- ・ 従業員数過不足DI「過剰」－「不足」は、不足感が強まった（川崎市内は1期ぶり不足感弱まる）

【商工会議所LOBO調査（早期景気観測調査）2018年12月調査結果より】

<https://cci-lobo.jcci.or.jp/wp-content/uploads/2018/12/LOBO201812.pdf>

「業況DIは、横ばい圏内の動き。先行きも不透明感から、慎重な見方変わらず」

- ・ 業況判断DIは横ばい（川崎市内は低下）
- ・ 売上DIは悪化（川崎市内はほぼ横ばい）
- ・ 採算DIは悪化（川崎市内も若干の悪化）

【参考】◎川崎信用金庫中小企業動向調査による、平成30年4月～平成30年12

月の景況感

▽【平成30年4～6月期】5期連続横ばい

概況

今期（平成30年4～6月期）の川崎市内中小企業の景況感を総合的に示す業況DI（業況判断指数）は、1.6と、前期比1.6ポイント増の横ばいを示した。市内業況DIは、平成29年4～6月期から5期連続横ばい傾向が続いている。

一方、売上額DIは前期比7.1ポイント減の△6.6、収益DIは前期比0.2ポイント減の△6.5を示した。

次期（平成30年7～9月期）業況DIの見通しは、△8.3と今期比9.9ポイント減の後退を予想している。世界的な原油・原料高の影響もあり、特に運輸業・建設業の次期見通しが悪化している。また、全体的な傾向として業種を問わず人手不足が深刻化しており、市内においても全国的な課題に直面している。とりわけ建設業・運輸業をはじめ各企業が人手不足を喫緊の課題として挙げている。この潮流は一朝一夕に改善し得るものとは考え難く、今後も厳しい状況が続くと言わざるを得ない。

▽【平成30年7～9月期】6期ぶり後退を示す

概況

今期（平成30年7～9月期）の川崎市内中小企業の景況感を総合的に示す業況DI（業況判断指数）は、△4.9と、前期比6.5ポイント減を示した。市内業況DIは、平成29年4～6月期から5期連続横ばいであったが、6期ぶりに後退を示した。一方、売上額DIは前期比1.5ポイント増の△5.1と横ばいとなった。収益DIは前期比4.4ポイント減の△10.9と後退を示した。

次期（平成30年10～12月期）業況DIの見通しは、△4.6と今期比0.3ポイント増の横ばいを予想している。一方、不動産業の次期業況DIの見通しは、競争激化、商品物件の不足、利幅の縮小等により、今期比△13.1ポイント減の△9.4と後退を示した。

尚、最近の事業経営上の問題点における上位2項目は5期連続で、「売上げの停滞・減少」、「人手不足」となっており、依然として問題は解消されず、厳しい状況が続くことが予想される。

▽【平成30年10～12月期】久々に改善を示す

概況

今期（平成30年10～12月期）の川崎市内中小企業の景況感を総合的に示す業況DI（業況判断指数）は、1.4と、前期比6.3ポイント増を示した。市内業況DIは、平成29年4～6月期から5期連続の横ばいを経て、前期（平成30年7～9月期）に6期ぶりの後退を示したが、今期久々の改善を示した。また、売上額DIも前期比4.9ポイント増の△0.2と改善を示した。

収益DIは前期比1.6ポイント増の△9.3と横ばいを示した。

市内業況の改善には、製造業の業況DIが22.6ポイント増、前期好調だった運輸業、及び不動産業を除いた他業種の改善が影響しているとみられる。

一方で次期（平成31年1～3月期）業況DIの見通しは、△3.1と今期比4.5ポイント減の後退を予想している。業種をみると、小売業（9.1ポイント減）、製造業（8.4ポイント減）、サービス業（8.1ポイント減）となっている。

最近の事業経営上の問題点における上位2項目は6期連続で、「人手不足」、「売上げの停滞・減少」となっており、また重点経営施策も変わらず「人材を確保する」「経費を節減する」が上位に目立つことから、依然として問題は解消されず、次期の後退予想につながっていると予想される。

以上